

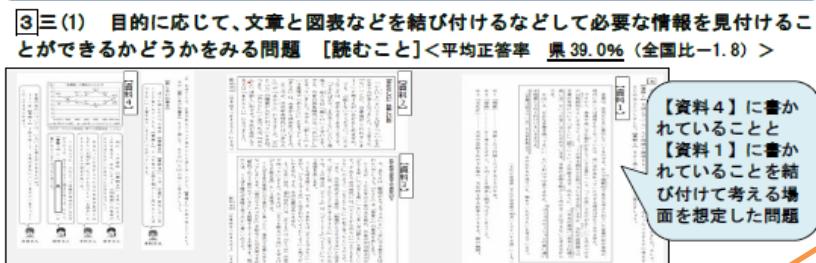
「授業改善のポイント」について

県教育局義務教育課

1 資料の見方

令和7年度 全国学力・学習状況調査 結果分析資料

調査問題から見える「授業改善のポイント」<小学校 国語>



本県として特徴的な結果が見られた問題

【調査結果の分析】

- 選択肢2『本来の意味』『本来とは違う使い方』といった言い方にとどめていますを誤って選択した児童が、正答と同程度(37.4%)だった。

なぜ?

なぜ誤答に至ったのか、考えられる児童生徒のつまずきの要因の例示

【考えられるつまずきの要因の一例】

- 「人によって言葉の意味のとらえ方がちがう」という田中さんの発言と、選択肢の「意味」や「違う使い方」という言葉を安易に結び付けて正答であると誤って捉えた。
- 加えて、「自分が一番なっとくしたことをまとめよう」という木村さんの発言から、児童自身が納得した選択肢を選ぶ問題であると誤って捉えた。

【正答に導くために指導すること】

- 空欄Aの前では、「～伝え合うときに困ると思うよ。だから【資料1】に」と記載されており、接続詞に注目することで田中さんの論の進め方を捉えていくとよいことを示している。また、【話し合いの様子】についても文章全体の構成と論の進め方を捉えるようにする。

正答に導くために指導することの例示

【授業改善のポイント】

- 目的を明確にし、複数の文章や資料を読んで必要な情報を見付ける言語活動の充実を図る。

➡ 【子どもの思考】 <抜き出す><比較する><関係付ける>

「思考の場面」

- 活動例
- 「〇〇を学ぶために読む」などの目的を明確にした上で、複数の文章や資料を読みながら、既に考えた語や文に線を引いたり、引いた部分を再検討したり、文章の中から必要な情報を取り捨てる。
 - 複数の文章や資料を読んで必要だと考えた情報を、共通点や相違点を明らかにしながら図に表し、情報と情報との関係を整理する。

その際に子ども・教員が意識する「子どもの思考」

- 文章の構造と内容を把握する場面を充実させる。

➡ 【子どもの思考】 <順序付ける><関連付ける><変換する>

活動例

- 活動例
- 文章を読む際に、話や文章の組立てや説明などにおける論の進め方に着目し、「始め・中・終わり」「序論・本論・結論」や頭括型、尾括型、双括型などの言葉を使いながら説明する。
 - 文と文を適切につなげることができるように、接続する語句を選択する。
 - 書き手が自分の考えをより適切に伝えるために、どのように論を進めているのか、また、説得力を高めるためにどのような理由や事例を用いているのかという視点で、資料の内容を吟味する。

2 「思考の場面」と「子どもの思考」について

○考え方の背景（県学力向上推進会議委員長メッセージ、学校教育指導の重点等より）

- 「子どもたち一人ひとりが主役となって思考する場面」と、「その思考過程を表現する場面」を設定した深い学びを通して、資質・能力をしっかりと育成することが大切
- 課題解決の際に汎用的に働き、学習の基盤となる資質・能力の一部と考えられる「子どもの思考」を自在に働かせるためには、活用する場面を数多く設定し経験させていくことが必要
- 教師が「子どもの思考」を意識することにより、児童生徒に対する漠然とした働きかけが、より子どもの思考に寄り添った働きかけに変わることにもつながる

◇ 思考の場面

思考の場面	説明
広げながら考える	視点を増やしたり、視野を広くしたりして、ものごとに対する自分の見方や考え方等を広げながら考える。
深めながら考える	視点を定めたり、焦点を絞ったりして、ものごとに対する自分の見方や考え方等を深めながら考える。
組み立てながら考える	自分で視点を見出したり、根拠を挙げたりして、ものごとに対する自分の見方や考え方等を、筋道を立ててまとめながら考える。

◇ 子どもの思考

子どもの思考	子どもの言葉	
*見通す	予想 推測	もしかしたら……かもしれない きっと……だろう
拡張する	拡散	他には……
	発展	だったら……
	適用	～にあてはめると……
*比較する	相似	似ているところは……
	相違	違いは……
	変化	変わったところは……
*関連付ける	接続	つなげると……
*順序付ける	時系列	はじめに、次に、最後に……
批判する	反論	でも…… だけど……
焦点化する	特徴 特長	目立つところは… よいところは……
	*分類・整理 傾向 列挙	仲間分けすると…… ……がよく見られる このまま……になりそう ……と……と
	*多面的 *多角的	……でもあるけれど……でもある 別の立場で考えると……
	理想化	～と見ると…… ～と考えると……
	*具体化 特殊化	具体的に考えると…… 例えば……
変換する	一般化 *抽象化	つまり……だと言える 共通することは……
	解釈 意味理解	……ということだ
	類推	同じように見ると……
内省する	省察	ふりかえると……
抜き出す	抽出	必要なところは…… 欠かせないところは……
	消去	取り除いていくと……
関係付ける	重点化	大事にしたいところは……
	*構造化	考えをまとめると……
	*理由 根拠	わけは…… ……ということから

*『小（中）学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』における「考えるための技法」に例示があるもの（類似含む）

調査問題から見える「授業改善のポイント」<小学校 国語>

3三(1) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかを見る問題 [読むこと]<平均正答率 県39.0% (全国比-1.8)>



【調査結果の分析】

- ・選択肢2「『本来の意味』『本来とは違う使い方』といった言い方にとどめています」を誤って選択した児童が、正答と同程度(37.4%)だった。

【考えられるつまずきの要因の一例】

- ・「人によって言葉の意味のとらえ方がちがう」という田中さんの発言と、選択肢の「意味」や「違う使い方」という言葉を安易に結び付けて正答であると誤って捉えた。
- ・加えて、「自分が一番なっとくしたことをまとめよう」という木村さんの発言から、児童自身が納得した選択肢を選ぶ問題であると誤って捉えた。

【正答に導くために指導すること】

- ・空欄 A の前では、「～伝え合うときに困ると思うよ。だから【資料1】に」と記載されており、接続詞に注目することで田中さんの論の進め方を捉えていくとよいことを示している。また、【話し合いの様子】についても文章全体の構成と論の進め方を捉えるようにする。

【授業改善のポイント】

○目的を明確にし、複数の文章や資料を読んで必要な情報を見付ける言語活動の充実を図る。

➡ 【子どもの思考】 <抜き出す> <比較する> <関係付ける>

- 活動例**
- ・「○○を学ぶために読む」などの目的を明確にした上で、複数の文章や資料を読んで必要だと考えた語や文に線を引いたり、引いた部分を再検討したり、文章の中から必要な情報を取捨選択する。
 - ・複数の文章や資料を読んで必要だと考えた情報を、共通点や相違点を明らかにしながら図に表し、情報と情報との関係を整理する。

○文章の構造と内容を把握する場面を充実させる。

➡ 【子どもの思考】 <順序付ける> <関連付ける> <変換する>

- 活動例**
- ・文章を読む際に、話や文章の組立てや説明などにおける論の進め方に着目し、「始め - 中 - 終わり」「序論 - 本論 - 結論」や頭括型、尾括型、双括型などの言葉を使いながら説明する。
 - ・文と文を適切につなげることができるように、接続する語句を選択する。
 - ・書き手が自分の考えをより適切に伝えるために、どのように論を進めているのか、また、説得力を高めるためにどのような理由や事例を用いているのかという視点で、資料の内容を吟味する。

調査問題から見える「授業改善のポイント」<中学校 国語>

2- 資料や機器を用いた話し方の工夫を捉えることができるかどうかを見る問題 [話すこと] <平均正答率 県 38.0% (全国比-0.7)>

ここで、〈スライド①〉を提示

スライドに示したように、次の年、また次の年へとつながる、持続的な活動であることが、この活動の大きな特徴です。咲いた花を楽しむだけではなく、手入れをしながら成長を見守ることに魅力を感じ、私は1年生のときからこの活動に参加しています。

「マリープロジェクト」

次の年へ
種まき
手入れ・水やり
開花
種の採取
花が枯れる
持続可能

スライドを用いた話し方の工夫を捉える

【調査結果の分析】

- 正答は選択肢2であるが、選択肢1「聞き手の印象に残るように、スライドで意見だけを要約して示しながら、意見とそれを支える根拠を示している。」を誤って選択した生徒 (38.0%) の方が多かった。

なぜ?

【考えられるつまずきの要因の一例】

- 「聞き手の印象に残るように」という書き出しを見て、図式化されたスライドを提示したことでも正答であると誤って捉えた。
- スライドに示された内容を、意見の「要約」であると誤って捉えた。

【正答に導くために指導すること】

- スライドが提示される前段の文章では、「マリーゴールドは、苗から育てることが多いですが、～います。」と聞き手の生活経験の違いがあることを示している。問われている前後の文章を読み、論理の展開を捉えるようにする。

【授業改善のポイント】

○文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する言語活動の充実を図る ➡ 【子どもの思考】 <関係付ける><関連付ける>

- 活動例
- 段落ごとに内容を捉えたり、段落相互の関係を押さえたりしながら、大きな意味のまとまりごとに文章全体における役割を考察する場面を設定する。
 - 図表が文章のどの部分と対応しているかに着目し、図表と文章を線で結び「文章では表せない情報を補う」など、本文における図表の役割を整理する。
 - まとめりを囲んだり、関係を矢印で表したりと対応関係を押さえたり、項目を立てて表にまとめたりと、複雑な情報を分かりやすく整理する活動を充実させる。

○「読むこと」の指導との関連を図り、目的や必要に応じて要約する学習活動の充実を図る ➡ 【子どもの思考】 <関係付ける><批判する><変換する>

- 活動例
- 説明的な文章の学習の際に混同しがちな「要約」・「要点」・「要旨」という語を比較しながら、学習用語の意味を正しく捉える。
 - 目的を明確にし、必要な情報に着目しながら文章を要約する。
 - 要約した文章を互いに読み合い、要約したものが目的に沿っているかを検討し、表現や内容を吟味する。

調査問題から見える「授業改善のポイント」<小学校 算数>

3(3) 数直線上に示された数を分数で書く問題

[数と量]<平均正答率 県35.2%(全国比+0.2)>

分数の場面でも、**単位量とその個数によって構成された量として、数直線上の位置を捉えることが求められる。**

(3) 次の数直線のア、イの目もりが表す数を分数で書きましょう。



【調査結果の分析】

(1) アについて (正答率 47.2%)

- $1/6$ (5.9%) やそれ以外の単位分数 (14.9%) などの誤答が見られた。また、分数ではなく小数で表す児童 (13.4%) もいた。

(2) イについて (正答率 35.3%)

- アを正しく $1/3$ と答えたうち、イを $5/6$ や $2/3$ と誤答する児童が (33.8%) 見られた。

【考えられるつまずきの要因の一例】

なぜ?

- 数直線の目盛りによらず、全体が 6 等分されていることに目を向けたことが考えられる。
- イについて、1 から 2 までを 3 等分したうちの 2 つ分と捉えている児童がいる。
- 整数や小数と比べて、分数を数直線上で考える経験が乏しく、数直線上で示される数は整数か小数だという先入観が働いた可能性がある。

【正答に導くために指導すること】

- 基準となる 1 という量を数直線上でとらえ、1 を基準とした単位分数を並べ進めて考えること。

【授業改善のポイント】分数の量的理験を育てる学年別のポイント

○【2年生】分数の表す大きさは「もとの大きさ」によって変わることを知ることができるように指導する。

➡ 【子どもの思考】 <比較する> <拡張する>

活動例 • いろいろな大きさの折り紙や、長さのひもを折って $1/2$ や $1/4$ を作り、その大きさを、もとの大きさとの関係に着目して比べる。その後、分母が奇数である分数で表された大きさについても実感することができるよう、もとの大きさを 15 として $1/3$ や $1/5$ にあたる大きさについても目を向けていく。

○【3年生】「何をもとにした分数なのか」を言葉で説明できるようにし、分割分数から量分数への橋渡しを図るよう指導する。

➡ 【子どもの思考】 <比較する> <変換する>

活動例 • 「 $1/4m$ 」と $2m$ をもとにした「 $1/4$ 」の長さの違いを、紙テープや図などの具体物を使って説明し、それぞれのもとにしている長さを明確にする。測定値を分数で表したものについても、1 をもとにして大きさを表していることを児童が捉えられるように留意する。

○【4年生】仮分数を図や数直線で表し、1 をこえる量として構成的に捉える力を育てるよう指導する。

➡ 【子どもの思考】 <抜き出す>

活動例 • 「 $1/3$ を 5 個集めると $5/3$ になる」ことを図や式で表現し、仮分数を 1 といくつの形で表し直すことで、分数大きさの感覚を豊かにする。同分母の分数の加法の場面で和が 1 を超える場合についても、場面を図に表すことで、何を 1 と見て考えるのか、単位分数がいくつ分かなのかを考えることを大切にする。

○【5年生】異分母の加減で「単位分数」を意識し、丁寧に分数を扱えるよう指導する。

➡ 【子どもの思考】 <内省する>

活動例 • 加法や減法に必要な共通の単位分数を探したり、その単位分数のいくつ分かで見たりするなど、加法や減法の計算の基本に立ち返りながら考えていく。特に減法の場面では、分数の大きさを意識して二量の大小関係を捉えたり、得られた結果の妥当性を検討したりするなど、活動を通して、計算の仕方や通分の意味理解につなげていく。

調査問題から見える「授業改善のポイント」<中学校 数学>

- 4 関数を用いて事象を捉え考察する場面において必要となる、次のことができるかどうかを見る問題**
- ・数や式、図、表、グラフなどを活用して、数学的に処理すること
 - ・一次関数 $y = a x + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めること
- [関数] <平均正答率 県 29.6% (全国比-5.1)>**

【調査結果の分析】

- ・17と解答した生徒は全体の29.9%であり、正答した人数を上回っている。また、6と解答した生徒は、全体の7.2%であった。

なぜ?

4 一次関数 $y = 6x + 5$ の変化の割合は6です。この一次関数について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求めなさい。

一次関数 $y = 6x + 5$ について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求める

【考えられるつまずきの要因の一例】

- ・「増加量」と「値」の区別がついておらず、 $y = 6x + 5$ に $x = 2$ を代入して y の値を求めた。
- ・一次関数の変化の割合は常に一定なので、 x の増加量がいくつであっても y の増加量は6であると考えた。

【正答に導くために指導すること】

- ・「変化の割合（比例定数）」や「増加量」といった基本的な知識について理解を深める。

【授業改善のポイント】

- 表、式、グラフを関連付けて、 x の値の変化に伴って、 y の値がどのように変化するのか調べる活動を充実させる

➡ 【子どもの思考】 <焦点化する>

- 活動例** • y の増加量をいろいろな条件や視点で考察する場面を設定する。
• 変化の割合とは、 x の値が1増加するときの y の増加量であることを理解できるように、表、式、グラフを関連付けて調べる活動を充実させる。

1 事象を数や式を用いて考察する場面において、次のことができるかどうかを見る問題

- ・事象の特徴を的確に捉えること
- ・素数の意味を理解していること

[数と式] <平均正答率 県 23.7% (全国比-8.5)>

【調査結果の分析】

- ・素数に1を含んで解答している生徒は全体の55.9%であった。また、素数ではなく、奇数を選んだ生徒は全体の10.6%であった。

なぜ?

1 下の1から9までの数の中から素数をすべて選び、選んだ数のマーク欄を黒く塗りつぶしなさい。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

1から9までの数の中から素数をすべて選ぶ

【考えられるつまずきの要因の一例】

- ・1より大きい自然数のうち、1とその数自身以外には約数をもたない数の集合が素数であるが、「1より大きい自然数」に、1は含まれないということが理解できていないと思われる。

【授業改善のポイント】

- 何をどのように理解しているかを大切にし、概念的な理解を重視する活動を充実させる

➡ 【子どもの思考】 <焦点化する><内省する>

- 活動例** • 素数、自然数、整数、奇数、偶数などの数を学習する際に、それぞれの特徴を調べる活動を充実させる。
• 既習の知識や技能を活用する際、学び直しの場面を設定する。

調査問題から見える「授業改善のポイント」<小学校 理科>

2(1) 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題

[物質・エネルギー] <平均正答率 県 9.3% (全国比-1.4)>

【調査結果の分析】

- ・アルミニウム、鉄、銅のいずれかに、誤って3または4を選択した児童は80.3%であった。

なぜ？

【考えられるつまずきの要因の一例】

- ・金属は電気を通すということの理解が不足している。
- ・鉄以外の金属も磁石に引き付けられるという誤認がある。

【正答に導くために指導すること】

- ・金属に共通する性質をきちんと押さえる。

電気を通す物や磁石で引きつけられる物、アルミニウム、鉄、銅のどれでつくらかな。

(1) アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の□から▲までのなかからそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでもよいません。

- 電気を通し、磁石に引きつけられる。
- 電気を通し、磁石に引きつけられない。
- 電気を通さず、磁石に引きつけられる。
- 電気を通さず、磁石に引きつけられない。

身の回りの金属について、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ

【授業改善のポイント】

○科学的な言葉や概念を用いた言語活動を充実させる。

➡ 【子どもの思考】 <比較する>

- 活動例**・実験で用いる身の周りの道具が、どのような物質で出来ているのかを確認する。
 ・クリップやハサミなど道具名を用いてまとめるのではなく、金属の種類と性質の一覧から金属の共通性について実験結果をまとめます。

○ものづくりを通して、学んだことをもとに、自分の目的に合わせて活用したり、捉え直したりする機会を設定する。

➡ 【子どもの思考】 <関係付ける>

- 活動例**・アルミ缶やスチール缶の塗装面に導線をつなげると豆電球が点かず、塗装面を削った部分に導線をつなげると豆電球が点く理由を、図や「金属」という言葉を使いながら説明する。

4(1) 水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる問題

[物質・エネルギー] <平均正答率 県 53.4% (全国比+2.8)>

【調査結果の分析】

- ・誤ってビーカーの中の味噌の動きに関する内容を記述している児童が16.3%であった。

なぜ？

【考えられるつまずきの要因の一例】

- ・教科書では示温インクを用いた実験計画が提示されている。示温インクは色の変化で温度変化を、変化した色の動きで熱の伝わり方を捉えているため、味噌の動きでも温度変化を捉えられると考えた可能性がある。

ゆういちさんは、【結果】をもとに【問題に対するまとめ】を考えました。

【問題に対するまとめ】
 ビーカーの底を中心で温めたとき、水の温められた部分が
上に移動して、全体が温まる。

ゆういちさんがまとめてくれて感づいたのだけど、この実験の
 【結果】だけでは、そのようなまとめはできないと思うな。
 この実験では、水の《ア》について調べていないのだから。

 ひろみ

(1)上のふきだしの《ア》にあてはまるこばを書く。

まとめを導きだすために、調べる必要があることについて書く

【授業改善のポイント】

○観察、実験を児童の問題解決のための手続きとなるようにする。

➡ 【子どもの思考】 <焦点化する> <変換する>

- 活動例**・「温度変化」と「熱の伝わり方」を関係づけて捉えるため、予想を確かめられる観察・実験方法となっているか考えさせる。

○問題に正対した考察を行い、適切に表現する活動を充実させる。

➡ 【子どもの思考】 <見通す> <関係付ける>

- 活動例**・「予想」と「観察・実験結果」を整理して仮説を検証し、問題に対する結論をまとめる。

調査問題から見える「授業改善のポイント」<中学校 理科>

- ①(3) 露頭のどの位置から水が染み出るかを確認する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかを見る問題

[身近な地形や地層、岩石の観察] <平均正答率 県35.8% (全国比-0.7)>

【調査結果の分析】

- 資料において、地層1・2は、ともに「水が通り抜ける」と記載されているのに対し、その間から水が染み出すと解答をした生徒が27.9%であった。
- 地層3が水は通りにくいのに対し、地層3を通り抜けた後の場所から水がしみ出すと解答した生徒が23.9%であった。

【考えられるつまずきの要因の一例】

- 地層1の説明に、「水は通り抜ける」とあるため、地層1を通り抜けて水が出てくると判断した可能性がある。
- 地層3の説明に、「水は通り抜けにくい」とあるため、地層3で水が染み出てくると判断した可能性がある。

なぜ?



地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して、水がしみ出している地層の境目を選択する

【正答に導くために指導すること】

- 地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して、水の染み込み方と水が染み出す位置を適切に関連付けてとらえさせる。

【授業改善のポイント】

○資料や観察・実験の結果から必要な情報を適切に取り出し、分析して解釈する場を設ける。

【子どもの思考】 <変換する><批判する>

- 活動例**・観察・実験の条件を制御したり、結果から必要な情報を適切に取り出し分析して解釈したりする経験を多く積ませる。また、自分が調べたり、まとめたことについて、教師から振り返りの視点を受け、批判的に見たり、結果等の分析が適切か見直させたりする。

- ①(4) 水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかを見る問題

[動物の体のつくりと働き] <平均正答率 県26.9% (全国比-2.9)>

【調査結果の分析】

- 生物4(ミカヅキモ)が呼吸をしていないとみなし、解答をした生徒が62.8%であった。

なぜ?



4種類の生物の中から、呼吸を行う生物をすべて選ぶ

【授業改善のポイント】

○観察・実験の結果から得られた知識等を、様々な場面に当てはめて解釈する場を設ける。

【子どもの思考】 <焦点化する><変換する>

- 活動例**・「他の場面では?」「他の生き物は?」「他の物質では?」など、学習した内容を身近な事象と結び付けて考えを深めたり、理解を広げたりして説明させる。